

2020 年 3 月 5 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会 会員 各位

オープンアクセスリポジトリ推進協会 会長

代表者 立教大学図書館長

中 村 百合子

2019 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会の開催について

平素より JPCOAR の活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2019 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）総会を「2019 年度総会に関する特例措置」（2020 年 2 月 28 日会長裁定）に基づき、下記のとおり開催いたします。

記

1. 開催期間： 2020 年 3 月 5 日（木）～3 月 16 日（月）17:00

2. 議 事：

第 1 号議案	2020 年度会長選出について	資料 2
第 2 号議案	2020 年度監事選出について	資料 3
第 3 号議案	2020 年度運営委員会委員について	資料 4
第 4 号議案	2020 年度活動計画について	資料 5
第 5 号議案	2020 年度予算について	資料 6
第 6 号議案	専任の事務局員確保の方策について	資料 7
第 7 号議案	会費規程の改正について	資料 8

3. 資 料：

1. 2019 年度総会に関する特例措置（2020 年 2 月 28 日会長裁定）
＜議事資料＞
2. 2020 年度会長（案）
3. 2020 年度監事（案）
4. 2020 年度運営委員会委員（案）
5. 2020 年度活動計画（案）
6. 2020 年度予算について（案）
- 7-1. 専任の事務局員確保の方策について（案）
- 7-2.（参考）JPCOAR 事務局員派遣の意向照会の結果まとめ
- 8-1. 会費規程の改正（案）新旧対照表
- 8-2. 会費規程改正（案）
- 8-3. 会費規程改正（案）へのご意見・ご質問と運営委員会としての考え方

<報告資料>

9. 2019 年度活動報告

10. 2019 年度決算（経過報告）

4. 投票手続きについて

別添「2019 年度総会投票（回答）方法について」を必ずご覧ください。

5. 参考資料

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則

オープンアクセスリポジトリ推進協会運営委員会規程

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程

オープンアクセスリポジトリ推進協会会則作業部会設置規程

オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度

【連絡先】

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）事務局

メールアドレス： jpcoar@nii.ac.jp

住所： 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2

国立情報学研究所 学術基盤推進部 図書館連携・協力室

2019 年度総会に関する特例措置について

2020 年 2 月 28 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会
会長裁定

1. オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（平成 28 年 7 月 27 日制定，以下「会則」という。）第 10 条第 1 項に定める通常総会について，政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」（令和 2 年 2 月 25 日）を受け，2019 年度総会（以下「総会」という。）に限り，以下のとおり取り扱う。
2. 総会は，オンライン投票方式によるものとする。
3. 会長名による総会招集の通知（メール）をもって，発議を行う。総会の開催期間は発議から 10 日を期限とする。
4. オンライン投票をもって出席に代える。会則第 12 条に定める定足数については，会員の過半数のオンライン投票をもって総会が成立するものとする。なお，議決権の委任はないものとする。
5. 議案への投票および議決は次のとおりとする。
 - (1) 賛成または反対の投票を行うものとする。これをもって有効票とする。
 - (2) (1)以外の記載があるものは，無効票として取り扱う。
 - (3) 議決は，有効票の過半数をもって決する。賛否同数の場合は，議長により決する。
 - (4) 投票の詳細については，発議の際に別途通知する。
6. 開票・結果の整理は，監事の立ち合いのもとに行う。
7. 会長は，総会終了後，速やかに会員に議決を通知する。

オープンアクセスリポジトリ推進協会会長（案）

運営委員会から、以下のとおり推薦します。

立教大学図書館 代表者 立教大学図書館長 中村 百合子

（任期：2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日）

以上

オープンアクセスリポジトリ推進協会監事（案）

本議案（第2号議案）については、被推薦の会員名の記載に誤りがあったため、2019年度総会の議案から取り下げとし、2020年4月予定の第3号議案（運営委員会委員）の選任と併せて、臨時総会に提案することとしました。

2020 年 3 月 5 日現在

2020 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会(JPCOAR)運営委員会委員 (案)

	氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	備 考
1	結城 憲司	北海道大学附属図書館研究支援課長	継続
2	鈴木 秀樹	筑波大学学術情報部長	継続
3	江川 和子	東京大学附属図書館事務部長	継続
4	高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	継続
5	<u>岡部 幸祐</u>	<u>新潟大学学術情報部長</u>	<u>退任</u>
	<u>川崎 安子</u>	<u>武庫川女子大学附属図書館図書課長</u>	<u>新規</u>
6	杉田 茂樹	上越教育大学学術情報課長	継続
7	尾崎 文代	岡山大学附属図書館情報管理課長	継続
8	山本 和雄	鹿児島大学学術情報部長	継続
9	<u>上田 理子</u>	<u>札幌市立大学地域連携課長</u>	<u>退任</u>
	<u>中谷 理理子</u>	<u>公立大学法人富山県立大学事務局教務課長</u>	<u>新規</u>
10	折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	継続
11	<u>藤原 芳行</u>	<u>立教大学図書館事務部長</u>	<u>退任</u>
	<u>(未定)</u>	<u>(未定)</u>	<u>新規</u>
12	鈴木 恵津子	東京家政大学図書館	継続
13	佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター准教授	<u>退任</u>
	<u>西岡 千文</u>	<u>京都大学附属図書館研究開発室助教</u>	<u>新規</u>
14	林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任助教	継続
15	小野 亘	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	継続

※退任の委員の後任について「未定」としている委員は、2020 年度人事異動の状況を鑑みた上で、2020 年 4 月初旬までに文書による臨時総会で承認を得ることにより、後任委員を決定することとする。継続予定の委員が人事異動により委員を継続することが困難な場合も同様とする。

J P C O A R

オープンアクセスリポジトリ推進協会

2020 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動計画（案）

2020 年 3 月 日
総 会 承 認

1. オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う。
担当：研究データ作業部会
 - (1) 新 JAIRO Cloud において研究データ公開を促進する活動を検討・実施する。
(1.1、1.2) 注
 - ★ (2) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベースレスキュープロジェクトを実施する。(1.2)
 - ★ (3) 大学 ICT 推進協議会研究データマネジメント部会（AXIES-RDM 部会）と連携して、RDM 事例形成プロジェクト等の研究データポリシー雛形作成に向けた活動を実施する。(1.2、1.3)
 - ★ (4) 若手研究者向けの研究データ管理に関する教材を作成する。(1.3)

2. オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する。
担当：コンテンツ流通促進作業部会
 - ★ (1) コンテンツ収集に関する調査結果にもとづき、ワークフローを考慮したオープンアクセスインフラ機能を検討する。(2.1)(2.2)(2.6)
 - ★ (2) 著作権ポリシーのデータメンテナンスを検討し、オープンアクセスのインフラを整備する。(2.2)(2.1)(2.6)
 - (3) JPCOAR スキーマの普及・維持管理を継続して実施するとともに、永続識別子の活用やライセンスの付与の促進活動を行う。(2.3)(2.4)(2.5)
 - ★ (4) 新 JAIRO Cloud への移行に伴う参加機関の利用のサポートをする。(2.6)
 - (5) データを用いてオープンアクセスの状況や識別子の普及状況等を調査・分析する。(2.1)(2.4)

3. オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する。
担当：コミュニティ強化・支援作業部会
 - ★ (1) 協会 HP、Facebook、twitter、情報誌 CoCOAR での情報提供及び情報発信を行う。(3.2)
 - ★ (2) JAIRO Cloud コミュニティのサポートを継続するとともに、現有のウェブサイトやコミュニティツールのあり方を整理し、新 JAIRO Cloud への移行に伴う次年度以降のサイト運営計画を作成する。(3.1、3.3)

- ★（３）JPCOAR の活動成果普及、地域単位でのコミュニティ活性化をはかるため、図書館総合展のフォーラム開催及び地域でのイベントプログラムを実施する。（3.1、3.4、3.5、4.2）
 - （４）会員機関のグッドプラクティスを情報誌やイベントで取り上げて情報共有を図る。（3.5）
4. オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う。
- 担当：人材育成作業部会
- （１）研修の編成、内容について継続的に検討・評価を行う。（4.1）
 - （２）基礎研修：オープンアクセス（機関リポジトリ運営を含む）に関する基礎的な研修を実施する。（4.2）
- ★（３）専門研修：JAIRO Cloud 新バージョンの紹介・操作説明会等を実施する。（4.2）
5. 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める。
- 担当：運営委員会
- ★（１）作業部会間、運営委員会と各作業部会との連絡を密にし、協会の情報収集力、企画力の強化をはかる。
 - ★（２）事務局員の確保を図り、継続的な事務局体制を整備する。（5.1）
 - （３）作業部会員の横断的な活動を組織化し、海外の動向調査等、若手、中堅職員のレベルアップを図り、人的活動基盤を強化する。（4.2、4.3）
 - （４）協会の活動及びその成果を広く発信し、国内外での認知度を向上させる。（3.2、5.2）
 - （５）COAR Annual Meeting 及び COAR Asia OA Meeting 等に会員を派遣し、JPCOAR のプレゼンスを高める。（4.3、5.2、5.4）
 - （６）国大図協オープンアクセス委員会、これからの学術情報システム構築検討委員会、大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）及び学術情報流通推進委員会（SPARC Japan）との連携体制を強化し、文部科学省、内閣府等の政策の動き及び COAR 等の動きへの適切な対応を行う。（5.3、5.4）

注：「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度」活動計画の項番を示す。以下同じ。

★：2020 年度活動計画の重点項目。

<収入の部>

単位：円

科目	2020年度 予算額(A)	2019年度 決算見込額(B)	増減 (A-B)	2019年度 当初予算額	備考
1. 会費	14,600,000	14,620,000	▲ 20,000	13,580,000	2019年度会員機関数: 629 (1/10現在) * 会費区分A:2万円×557機関= 1,114万円 会費区分B:4万円× 43機関 = 172万円 会費区分C:6万円× 29機関 = 174万円
計	14,600,000	14,620,000	▲ 20,000	13,580,000	*2019年度途中退会1機関により減収

<支出の部>

単位：円

科目	2020年度 予算額(A)	2019年度 決算見込額(B)	増減 (A-B)	2019年度 当初予算額	備考
1. 事務局経費	11,500,000	8,848,000	2,652,000	7,370,000	
(1) 事務協力費	9,200,000	4,086,000	5,114,000	5,000,000	事務協力費及び事務補佐員人件費※ 1
(2) 事務局運営費※	2,300,000	4,762,000	▲ 2,462,000	2,370,000	窓口委託, 会員機関情報管理他
2. 運営委員会等経費	250,000	294,000	▲ 44,000	1,070,000	
活動費	200,000	291,000	▲ 91,000	1,020,000	運営委員会(3回)、企画調整会議(5回)
監事監査費	50,000	3,000	47,000	50,000	
3. 総会経費	670,000	50,000	620,000	670,000	
総会会場費	220,000	0	220,000	220,000	一橋大学一橋講堂中会議場使用
総会運営費	300,000	0	300,000	280,000	運営委託経費
総会旅費	150,000	50,000	100,000	170,000	会長・監事・運営委員・報告者
4. 図書館総合展出展	100,000	139,000	▲ 39,000	260,000	
5. 部会活動費※	1,070,000	2,848,000	▲ 1,778,000	2,800,000	
研究データ作業部会	150,000	458,000	▲ 308,000	350,000	
コンテンツ流通促進作業部会	420,000	1,073,000	▲ 653,000	690,000	
コミュニティ強化・支援作業部会	250,000	712,000	▲ 462,000	980,000	
人材育成作業部会	250,000	605,000	▲ 355,000	780,000	
6. 国際連携活動費	1,010,000	2,441,000	▲ 1,431,000	1,410,000	
海外派遣旅費※	0	401,000	▲ 401,000	400,000	COAR総会, CRIS 2020, Asia OA 2020
COAR会費	1,010,000	2,040,000	▲ 1,030,000	1,010,000	2021年分
計	14,600,000	14,620,000	▲ 20,000	13,580,000	

※支出のうち不足額については、国立情報学研究所予算からの支援により支出する。

※ 1：「事務補佐員」の該当者は1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、事務協力費の内訳は示さない。

JAIRO Cloud利用料金

< 収入の部 >

単位：円（税込み）

科目	2020年度 予算額(A)	2019年度 決算見込額(B)	増減 (A-B)	2019年度 当初予算額 (B)	備考
JAIRO Cloud利用料金	61,908,000	58,730,400	3,177,600	56,203,200	2020年度会員館数（当初見込み550） 区分1： 4万円×273機関＝1,092万円 区分2： 8万円×137機関＝1,096万円 区分3： 12万円×49機関＝588万円 区分4： 16万円×30機関＝480万円 区分5： 20万円×8機関＝160万円 区分6： 24万円×9機関＝216万円 区分7： 28万円×6機関＝168万円 区分8： 32万円×8機関＝256万円 区分9： 36万円×4機関＝144万円 区分10： 40万円×3機関＝120万円 区分11： 44万円×3機関＝132万円 区分12： 48万円×3機関＝144万円 区分13： 52万円×3機関＝156万円 区分14： 56万円×1機関＝56万円 区分15： 60万円×3機関＝180万円 区分16： 64万円×10機関＝640万円
計	61,908,000	58,730,400	3,177,600	56,203,200	

< 支出の部 >

単位：円

科目	2020年度 予算額(A)	2019年度 決算見込額(B)	増減 (A-B)	2019年度 当初予算額 (B)	備考
JAIRO Cloud運用費	61,908,000	58,730,400	3,177,600	56,203,200	
計	61,908,000	58,730,400	3,177,600	56,203,200	

専任の事務局員確保の方策について（案）

1. 基本的な考え方

（ア）会員に事務局員派遣についての照会を行った。その結果、以下の回答があった。

（627 機関中回答数 287 機関，回答率 46％）

A. 派遣の検討をしたい 1 機関

B. 条件次第では派遣を検討したい 6 機関

（イ）A,B の回答のコメントとして、派遣による効果の明確化、庶務業務の軽減と企画立案業務の比率を高めることを求める意見が多かった。→ 3. を参照

（ウ）現状では、JPCOAR 雇用の事務補佐員（有期雇用職員）1 名に加え、国立情報学研究所の職員が多大な支援を行っているが、JPCOAR の戦略の実現のための企画立案等の業務が圧倒的に不足しており、専任の事務局員の確保が必須である。

（エ）企画立案等に携わる専任の事務局員を確保するには、同時に庶務業務を担当する事務補佐員の雇用が必要である。

（オ）協会財務を見直し、出向元への事務協力費に加え、事務補佐員 1 名の人件費を確保する。

2. 基本会費の増額

（ア）上記の実現には、事務協力費（500 万円）に加え、事務補佐員人件費（420 万円）を確保する必要がある。

（イ）これには、2020 年度の収入予算額から約 420 万円の増収が必要である。

（ウ）このため、2019 年度総会（3 月 17 日）において、翌々年度 2021 年度から JPCOAR 基本会費を一律 3 割増とする JPCOAR 会費規程改正を提案する。

改正が承認された場合、2021 年度から 438 万円増収（見込み、「基本会費試算」参照）となり、上記経費が安定的に確保できる。

（エ）ただし、会費規程改正は 2021 年度施行となるので、2020 年度収入予算は大幅に不足するが、作業部会等の活動を大幅に縮減して対応する。

2020 年 1 月末現在試算

基本会費試算

(円)

区分	構成員数	機関数	現行		改正案 一律 3 割増額		(参考) 一律 4 割増額	
			会費額 (年額)	収入額	会費額 (年額)	収入額	会費額 (年額)	収入額
A	0～600 人	557	20,000	11,140,000	26,000	14,482,000	28,000	15,596,000
B	601～ 1,100 人	43	40,000	1,720,000	52,000	2,236,000	56,000	2,408,000
C	1,101 人～	29	60,000	1,740,000	78,000	2,262,000	84,000	2,436,000
計		629		14,600,000		18,980,000		20,440,000
					増収額	4,380,000	増収額	5,840,000

3. 照会に対する回答コメントの概要（一部文言を修正）

A. 派遣の検討をしたい 1 機関

B. 条件次第では派遣を検討したい 6 機関

- ・ 総務・会計的事務を行うだけのように見えるため、人材育成上の効果や派遣元組織が受けるメリットについても言及してほしい。
- ・ 適任者の確保が難しい。検討・調整に時間を要する。
- ・ JUSTICE のように事務局長 1 名のもとで派遣職員 2 名という体制であれば、派遣された職員の成長も見込めるので、大学として一定期間派遣することも考えられます。
- ・ 職務内容については、更新いただきましたが、組織体制の整備に課題があると思われる。
- ・ 出向職員が担当する職務内容のうち、(ア)と(イ)をメインとし、(ウ)の内容を最小限としていただくこともご検討いただきたい。[(ア) 会員の活動支援 (イ) 調査研究 (ウ) 庶務業務]
- ・ 職員派遣の代替人員が配置できること。担当業務は、派遣する職員のスキルアップにつながる有用なものであること。

C. 派遣は検討できない

- ・ 人員不足のため。担当が委託・派遣職員のため（同様コメント多数）。

(参 考)

JPCOAR 事務局員派遣の意向照会の結果まとめ

1. 照会の概要

2019 年 12 月 17 日付で、次の選択肢を示して、627 会員にメール照会を行った(回答期限：2019 年 12 月 27 日)。

A. 派遣の検討をしたい

B. 条件次第では派遣を検討したい

職員派遣を検討いただく場合に、前提となる条件等を自由にご記入ください。

()

C. 派遣は検討できない

差し支えない範囲で理由をご記入ください。

()

2. 調査結果

全機関数 627
回答数 288
回答率 46%

回答数概要

会員区分	機関数
A	244
B	20
C	24
計	288

(会費区分) A … 0～600 人, B … 601～1,100 人, C … 1,101～

回答集計

選択肢	機関数
A	1
B	6
C	281
計	288

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程の改正（案）

理由：専任の事務局員派遣を確保するため、出向元への事務協力費に加え、JPCOAR として事務補佐員を雇用するための人件費確保に対応するため、基本会費額（年額）を改定する。

改正案	現行及び 2021 年 4 月 1 日施行																								
<p>附 則</p> <p>前の附則にかかわらず、この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p><u>附 則</u></p> <p><u>この規程は、2020 年 3 月 17 日に改正し、2021 年 4 月 1 日から施行する。</u></p> <p>別紙 1</p> <p>1. 第 3 条第 1 号の基本会費は、次の表 1 のとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">表 1 基本会費</p> <table><tr><th>区分</th><th>構成員数</th><th>会費額（年額）</th></tr><tr><td>A</td><td>0 ～ 600 人</td><td><u>26,000</u> 円</td></tr><tr><td>B</td><td>601 ～ 1,100 人</td><td><u>52,000</u> 円</td></tr><tr><td>C</td><td>1,101 人～</td><td><u>78,000</u> 円</td></tr></table>	区分	構成員数	会費額（年額）	A	0 ～ 600 人	<u>26,000</u> 円	B	601 ～ 1,100 人	<u>52,000</u> 円	C	1,101 人～	<u>78,000</u> 円	<p>附 則</p> <p>前の附則にかかわらず、この規程は、2021 年 4 月 1 日から施行する。</p> <p>別紙 1</p> <p>1. 第 3 条第 1 号の基本会費は、次の表 1 のとおりとする。</p> <p style="text-align: center;">表 1 基本会費</p> <table><tr><th>区分</th><th>構成員数</th><th>会費額（年額）</th></tr><tr><td>A</td><td>0 ～ 600 人</td><td><u>20,000</u> 円</td></tr><tr><td>B</td><td>601 ～ 1,100 人</td><td><u>40,000</u> 円</td></tr><tr><td>C</td><td>1,101 人～</td><td><u>60,000</u> 円</td></tr></table>	区分	構成員数	会費額（年額）	A	0 ～ 600 人	<u>20,000</u> 円	B	601 ～ 1,100 人	<u>40,000</u> 円	C	1,101 人～	<u>60,000</u> 円
区分	構成員数	会費額（年額）																							
A	0 ～ 600 人	<u>26,000</u> 円																							
B	601 ～ 1,100 人	<u>52,000</u> 円																							
C	1,101 人～	<u>78,000</u> 円																							
区分	構成員数	会費額（年額）																							
A	0 ～ 600 人	<u>20,000</u> 円																							
B	601 ～ 1,100 人	<u>40,000</u> 円																							
C	1,101 人～	<u>60,000</u> 円																							

オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程 改正（案）

平成28年7月27日
制 定

（総則）

第1条 オープンアクセスリポジトリ推進協会会則（以下「会則」という。）の第16条に基づき、オープンアクセスリポジトリ推進協会（以下「協会」という。）の会費に関して必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第2条 この規程における用語の定義は、次のとおりとする。

- （1）「JAIRO Cloud サービス」とは、国立情報学研究所共用リポジトリサービス利用規程第2条に規定するサービスとする。
- （2）「JAIRO Cloud 環境」とは、JAIRO Cloud サービスで使用する機関リポジトリ環境であり、JAIRO Cloud サービスの利用単位とする。
- （3）「構成員数」とは、当該の利用機関に所属する「常勤の教員及び研究者」の人数とする。ただし、常勤の教員及び研究者を置かない機関にあっては、その人数は0人とする。
- （4）「登録容量」とは、会員が1つの JAIRO Cloud 環境に登録等することができる上限のコンテンツ等の容量とする。
- （5）「年度」とは、4月1日から翌年3月31日までとする。

（会費の区分）

第3条 協会の会費は、以下の各号に掲げる区分で構成する。

- 一 基本会費
- 二 JAIRO Cloud 利用料金
- 三 JAIRO Cloud 特別料金

（基本会費）

第4条 第3条第1号の基本会費は、別紙1の表1「基本会費」のとおりとする。

（JAIRO Cloud 利用料金）

第5条 第3条第2号の JAIRO Cloud 利用料金は、別紙2の表2「JAIRO Cloud 利用料金」のとおりとする。

- 2 JAIRO Cloud サービスの利用を希望する機関は、前項で定める JAIRO Cloud 利用料金を支払うものとし、1つの JAIRO Cloud 環境につき 100 ギガバイトを登録容量とする（以下「基本 JC サービス」という。）。
- 3 前項の規定にかかわらず、年度途中で利用開始となる場合には、利用開始月の翌四半期から当該年度末までの四半期ごとに前項の料金の 4 分の 1 を乗ずる額の合計額を利用料金とする。1 円未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てる。
- 4 2つ以上の基本 JC サービスを利用する会員は、第 2 項及び第 3 項に該当する JAIRO Cloud 利用料金を合計した利用料金を支払うものとする。

（JAIRO Cloud 特別料金）

- 第 6 条 第 3 条第 3 号の JAIRO Cloud 特別料金は、別紙 3 の表 3 「JAIRO Cloud 特別料金」のとおりとする。
- 2 JAIRO Cloud環境において、100ギガバイトを超える登録容量を希望する会員は、前項で定める JAIRO Cloud 特別料金を支払うものとし、申請した区分に応じてコンテンツ等を登録できるものとする（以下「特別 JC サービス」という。）。
 - 3 区分は、当該会員の申請に基づき、決定する。登録容量を増加する場合のみ、年度途中で区分を変更できるものとする。その場合、変更後の申請区分に相当する料金全額との差額を納入するものとする。
 - 4 2つ以上の「特別 JC サービス」を利用する会員は、申請した区分に応じた第 1 項に定める JAIRO Cloud 特別料金を合計した特別料金を支払うものとする。

（会費の請求）

- 第 7 条 協会は、第 3 条に規定する会費を請求する。
- 2 すべての会員は、基本会費を納入する。
 - 3 会員は、利用する JAIRO Cloud サービスに基づき、JAIRO Cloud 利用料金又は JAIRO Cloud 利用料金と JAIRO Cloud 特別料金の合計額を納入するものとする。
 - 4 協会は、前項の額に消費税を加えた額を請求する。
 - 5 すべての会費は、協会の事務局が指定した期日までに、指定する金融機関に振り込むものとする。
 - 6 協会は、支払済みの会費を返還しない。

（基本会費の納入）

- 第 8 条 会員は、毎年度、協会の事務局が指定する期日までに基本会費全額を納入するものとする。
- 2 基本会費の分納は、認めないものとする。
 - 3 年度の途中から入会した場合も、年額を納入するものとする。

（JAIRO Cloud 利用料金の納入）

第9条 基本 JC サービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度の JAIRO Cloud 利用料金の年額を納入するものとする。ただし、年度途中の利用開始後の取扱いは、第5条第3項によるものとする。

2 年度途中で利用する基本 JC サービスを追加する場合、当該会員は、前項の利用料金と追加の基本 JC サービスに係る利用料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 利用料金の分納は、認めないものとする。ただし、基本 JC サービスを追加する会員は、当該年度に納入した JAIRO Cloud 料金との差額を納入するものとする。

(JAIRO Cloud 特別料金の納入)

第10条 特別 JC サービスを利用する会員は、利用開始後、及び、継続の場合は毎年度、当該年度の JAIRO Cloud 特別料金の年額を納入するものとする。

2 年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別 JC サービスを追加する場合、当該会員は、前項の特別料金と追加の特別 JC サービスに係る特別料金の合計金額を、納入するものとする。

3 JAIRO Cloud 特別料金の分納は、認めないものとする。ただし、年度途中で登録容量を増加する場合又は利用する特別 JC サービスを追加する会員は、当該年度に納入した JAIRO Cloud 特別料金との差額を納入するものとする。

(支援金)

第11条 会員及び会員以外の個人又は団体会費以外の負担（以下「支援金」という。）を希望する場合は、運営委員会の承認を受けるものとする。

2 運営委員会委員長は、前項の事実が発生した場合には総会において報告を行うものとする。

(会費の管理)

第12条 会費及び支援金の管理は、協会の事務局を置く国立情報学研究所において行う。

附 則

この規程は、平成28年7月27日から施行する。

附 則

この規程は、2019年3月13日に改正し、2020年4月1日から施行する。

附 則

前の附則にかかわらず、この規程は、2021年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、2020年3月17日に改正し、2021年4月1日から施行する。

別紙 1

1. 第 3 条第 1 号の基本会費は、次の表 1 のとおりとする。

表 1 基本会費

区分	構成員数	会費額（年額）
A	0 ～ 600 人	<u>26,000 円</u>
B	601 ～ 1,100 人	<u>52,000 円</u>
C	1,101 人～	<u>78,000 円</u>

別紙 2

1. 第 3 条第 2 号の JAIRO Cloud 利用料金は、次の表 2 のとおりとする。

表 2 JAIRO Cloud 利用料金

区分	構成員数	JAIRO Cloud 利用料金(税抜き・年額)
G 1	0 ～ 100 人	40,000 円
G 2	101 ～ 200 人	80,000 円
G 3	201 ～ 300 人	120,000 円
G 4	301 ～ 400 人	160,000 円
G 5	401 ～ 500 人	200,000 円
G 6	501 ～ 600 人	240,000 円
G 7	601 ～ 700 人	280,000 円
G 8	701 ～ 800 人	320,000 円
G 9	801 ～ 900 人	360,000 円
G 1 0	901 ～ 1,000 人	400,000 円
G 1 1	1,001 ～ 1,100 人	440,000 円
G 1 2	1,101 ～ 1,200 人	480,000 円
G 1 3	1,201 ～ 1,300 人	520,000 円
G 1 4	1,301 ～ 1,400 人	560,000 円
G 1 5	1,401 ～ 1,500 人	600,000 円
G 1 6	1,501 人～	640,000 円

別紙3

1. 第3条第3号のJAIRO Cloud特別料金は、登録容量に応じ、次の表3のとおりとする。

表3 JAIRO Cloud 特別料金

区分	登録容量	JAIRO Cloud 特別料金 (税抜き・年額)
S1	100GB 超 200GB 以下	20,000 円
S2	200GB 超 400GB 以下	40,000 円
S3	400GB 超 1,000GB(1TB)以下	100,000 円
S4～	1TB 超 2TB 以下	200,000 円
	登録容量が 1TB を超える場合は、1TB を 1 区分として、1TB あたりの料金を 100,000 円として算出する。	

- 1) 本表における「区分」とは、当該の会員が利用する 1 つの JAIRO Cloud 環境当たりの登録容量によるものとする。

2020 年 3 月 5 日

オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

会費規程改正（案）へのご意見・ご質問と運営委員会の考え方

2 月 28 日までにお寄せいただいた主なご意見・ご質問と、運営委員会としての考え方を以下に示します。

1. 基本会費の増額は会員にとって重大な環境変化なので、JAIRO Cloud 利用料の軽減などの緩和措置を考えてもらいたい。JPCOAR 設立前には、JAIRO Cloud 利用機関が増加すれば利用料は見直し可能という説明もあった。
 - ・ JAIRO Cloud 利用料については、次期 JAIRO Cloud への移行、複数 JAIRO Cloud および容量拡大の実施後にその結果を踏まえて、再検討したいと考えています。
 - ・ 会員機関への影響を考慮し、会費規程改正の施行は、1 年間の猶予期間をもって、2021 年 4 月を予定としております。
2. 小規模機関に配慮した会費区分を設定してほしい。
 - ・ JAIRO Cloud 利用料は機関規模に応じて細かく段階を刻んでいますが、基本会費は多段階の差を設けないほうが公平であるというのが設立時の考え方でした。将来的には、会員の構成、増減の見通し等を踏まえ、会費区分の見直しも課題と考えています。
3. 設立からこれまで、新規会員増による収入増があるのではないか。
 - ・ 2018-2019 年度については、会員増によって基本会費が収入増となっているのはご指摘のとおりですが、会員の増加と多様化により、入会相談の対応、会費徴収等の庶務業務も増大しています。また収入増の見込みだけでは、事務協力費（500 万円）に加え、事務補佐員人件費（420 万円）を確保するには不足が見込まれるため、今回の改正を提案しました。
 - ・ 2020 年度に収入増があれば、作業部会の活動費に充てることを考えております。
4. 作業部会等の活動を縮減して対応できないか。
 - ・ 2020 年度から専任の事務局員の出向を受け入れる予定のため、2020 年度予算案では、作業部会等の予算を大幅に削減しました。しかし、作業部会等の活動の縮減は、研修会や地域ワークショップ等、広く会員の利益となる活動の縮小を含んでおり、単年度限りの緊急避難的な措置と考えております。
 - ・ 2021 年度以降も、TV 会議の活用など経費の削減に努め、効率的、効果的な活動に

向けて、不断の見直しを行うことといたします。

5. 事務局員、事務補佐員、業務委託及び国立情報学研究所(NII)の支援体制について説明していただきたい。

- ・ 専任の事務局員は、運営委員会委員長、作業部会主査、NII 教職員等と必要な相談を行いながら、主に以下の業務を担います。

(1) 企画、立案

- ・ JPCOAR のミッションと戦略に基づき、運営委員会の議事、外部への対応、会員の活動支援など諸案件に関して企画・立案を行う
- ・ JPCOAR の活動に関連した調査、研究を行う

(2) 事務局業務の総括、事務補佐員への指示

(3) 文部科学省、各大学図書館協会、NII, JUSTICE その他関連外部団体の対応

(4) その他、国際連携の活動、学術情報流通に関する情報収集、委員・会員館への情報提供

- ・ 専任の事務局員が上記のような業務を担うためには、庶務業務を主に担当する事務補佐員が必須です。事務補佐員の主な業務は以下のとおりです。

(5) 会員館対応、庶務

- ・ 会員館情報の管理（入会、退会、変更）
- ・ 会費の請求書発行、収入・執行管理
- ・ 総会および JPCOAR 諸会議の開催に係る調整、旅費申請、配付資料作成、議事要旨の作成
- ・ 委員の出張（国内・国外）に係る旅費申請、会議参加登録料の支払
- ・ 業務委託については、主に、会員および入会検討中の機関から JPCOAR への問合せの受付、軽微な問合せに対する一次対応を行っています。
- ・ JPCOAR の戦略の 1 つに掲げた「持続可能な協会運営」は、今回の提案により、専任の事務局員と事務補佐員を確保し、加えて業務委託を有効に活用することによって可能となると考えております。
- ・ 2020 年度においては、NII から従来通りの支援（事務室・光熱水費・ネットワーク環境・一部消耗品等の提供）が継続される予定です。また会費の徴収・執行については NII 会計課の協力も得ています。

その他、以下のご提案・ご意見もいただきました。

- ・ 派遣を検討できる大学がかなり少ないことを考えると、輪番方式や、出向職員に代わる人員の確保の検討も必要ではないか。
- ・ テレワークを含め、働き方改革を視野にいれた事務局の運営体制も整えてほしい。

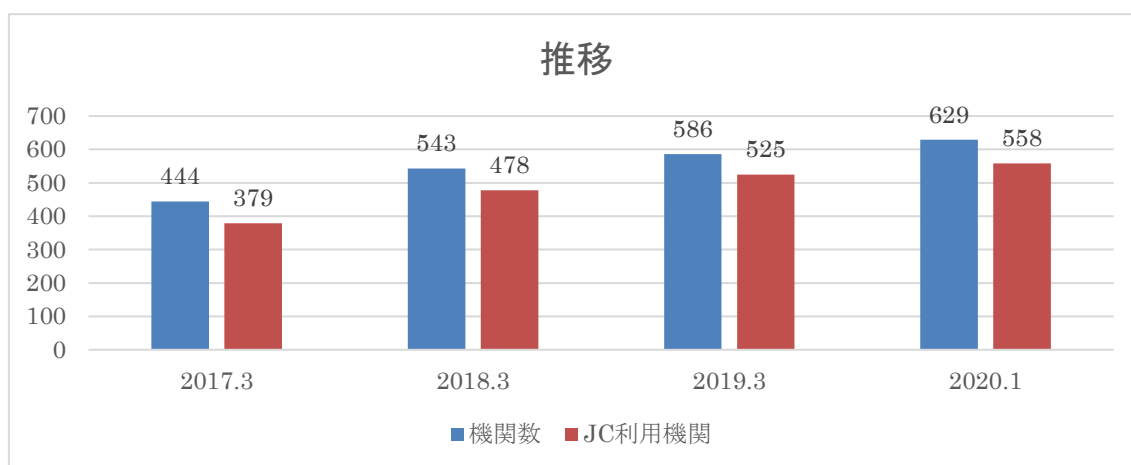
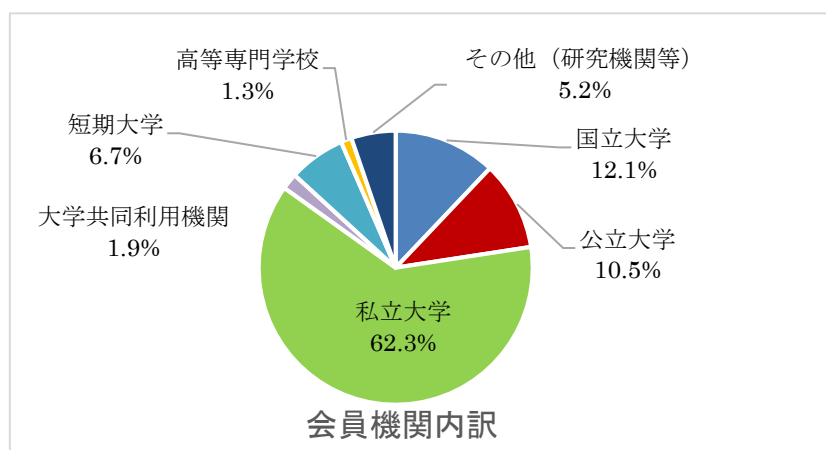
2019年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）活動報告

1. 組織・体制

(1) 会員機関状況

種 別	機 関 数	JC 利用機関
国立大学	76	48
公立大学	66	59
私立大学	392	365
大学共同利用機関	12	11
短期大学	42	41
高等専門学校	8	8
その他（研究機関等）	33	26
合計	629	558

(2020年1月10日現在)



(2) 運営体制

会長	立教大学
監事	お茶の水女子大学、首都大学東京（2019年7月1日～）
運営委員	15名（会員機関選出）
作業部会員	53名（2019年度会員機関選出）
事務局	2名（JPCOAR 有期雇用1名、NII から支援1名） ※会員機関から出向を検討中

2. 会議

(1) 総会

通常総会

- ・日程：2020年3月17日 13:30～17:00（予定）
- ・会場：一橋大学一橋講堂中会議場
- ・内容：2020年度会長選出について（協議）
2020年度監事選出について（協議）
2020年度運営委員会委員について（協議）
2019年度活動について（報告）
2019年度決算について（経過報告）
事務局員派遣についての照会の結果について（報告）
2020年度活動計画について（協議）
2020年度予算について（協議）
専任の事務局員確保の方策について（協議）
会費規程の改正について（協議）
事例報告【グリーンOAのグッドプラクティスと課題】
次期 JAIRO Cloud 移行について
その他

臨時総会

- ・2019年度 JPCOAR 運営委員会委員及び2019年度 JPCOAR 活動計画の承認（2019年4月9日、メールによる審議）
- ・2019年度決算の承認（2019年6月26日、メールによる審議）
- ・オープンアクセスリポジトリ推進協会会費規程の改正の承認（2019年12月5日、メールによる審議）

(2) 運営委員会 全3回開催

第8回（2019年6月4日）

- ・2018年度決算案及び監査結果について
- ・2019年度 JPCOAR 運営委員会・作業部会・事務局の体制について

- ・2019 年度作業部会の活動計画について

第 9 回（2019 年 10 月 23 日）

- ・2019 年度活動中間報告及び予算執行状況について
- ・JAIRO Cloud 移行について
- ・JPCOAR への事務局員派遣について

第 10 回（2020 年 1 月 27 日）

- ・2019 年度予算執行状況及び活動報告について
- ・2019 年度総会について
- ・JPCOAR への事務局員派遣について

また、企画調整会議(5/20、7/4、9/6、12/9、1/15、2/4)を開催している。

（3）作業部会のミーティング

研究データ作業部会（2019 年 6 月 26 日、12 月 16 日、2020 年 3 月（予定））

コンテンツ流通促進作業部会（2019 年 6 月 18 日、12 月 24 日、2020 年 3 月 3 日）

コミュニティ強化・支援作業部会(2019年6月3日)。定例TV会議を開催(2019/7/31、8/28、9/25、10/25、11/25、12/16、2020/1/30)

人材育成作業部会（2019 年 7 月 25 日、11 月 14 日、12 月 23 日）

その他、作業部会下のプロジェクト及びチーム単位での TV 会議等を随時開催。

3. 活動

（1）JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度に基づく活動

2018 年度総会において決定された「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度」に基づき、作業部会は 4 つに再編され、各々担当する戦略とその活動計画に取り組んでおり、主な活動の概要は次のとおりである。

戦略 1 オープンサイエンスの推進に寄与するため、研究データの公開、流通に関する先導的な取組みを行う（研究データ作業部会）。

学認 LMS による研究データ管理に関するオンライン講座の機関試験運用を実施し、大学 ICT 推進協議会（AXIES）の RDM 事例形成プロジェクトへの協力を行う等、研究支援に携わる職員のスキル向上に向けた支援に取り組んだ。

戦略 2 オープンアクセスを推進する学術情報流通の基盤を整備し、コンテンツの流通、活用を促進する（コンテンツ流通促進作業部会）。

新 JAIRO Cloud 移行実験を行って NII の新システム開発に協力したほか、SCPJ（著作権ポリシーデータベース）の JPCOAR サイトへの移行や JPCOAR スキーマの改訂等の基盤整備に取り組むとともに、グリーン OA のグッドプラクティスの現状調査や OA の動向に関わるデータ分析など、コンテンツ収集のための調査を行った。

戦略3 オープンアクセスリポジトリを支えるコミュニティとしての機能を強化する（コミュニティ強化・支援作業部会）。

情報誌 CoCOAR 等での情報発信、地域ワークショップの開催及び 2019 年度総会において、戦略2におけるグッドプラクティスの情報共有・普及に取り組んだ。

戦略4 オープンアクセス、オープンサイエンスの推進に対応できる人材育成を行う（人材育成作業部会）。

新任担当者等の研修を実施するとともに、育成すべきスキルの抽出を行い、2020 年度以降の研修体系の再構成に取り組んだ。

戦略5 協会の活動基盤を強化し、JPCOAR のブランド力を高める（運営委員会）。

引き続き会員機関の拡大を図るとともに、事務局体制の強化・安定に向けて検討を進め、全会員への職員派遣に係る照会を行った。また、作業部会間の活動を調整し、作業部会の連携強化に取り組んだ。

さらに、関連する国内の組織との連携を進めるため、学術情報流通推進委員会（SPARC Japan）への委員の派遣を開始した。

（2）協会活動の概略

国立情報学研究所と協会で共同運営する JAIRO Cloud は機能改善を目指し、システム移行を 2020 年 4 月として準備を進めてきたが、より慎重にシステム移行を進めることとし、移行時期を 2020 年 10 月予定に変更することとなった。これに伴い、2018 年度総会で承認された改正 JPCOAR 会費規程の施行を 2021 年 4 月とする改正が、臨時総会にて承認された。

1）第 21 回図書館総合展フォーラム（2019 年 11 月 14 日、パシフィコ横浜）

・「始めなければ始まらないーJPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略の幕開けー」（167 名参加）。今回は動画中継及び動画掲載（JPCOAR サイト）を実施した。

2）「オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）事務局への貴機関職員の派遣について（照会）」（照会期間：2019 年 12 月 17 日～27 日）

3）国立大学図書館協会中国四国地区協会「令和元年度国立大学図書館協会地区協会助成事業の共催」（2020 年 2 月 13 日、岡山大学）。参加：66 名

・「国立大学図書館協会中国四国地区協会・JPCOAR ワークショップ 「OA + x = OS」 ～とにかくオープンアクセス・オープンサイエンス～」

4）次期 JAIRO Cloud（WEKO3）移行説明会の共催（2020 年 3 月 6 日、NII） 参加：100 名（予定）

（3）作業部会の活動

1）研究データ作業部会

・第 21 回図書館総合展フォーラム「研究データ管理のための教材作成」報告（2019 年 11 月 14 日）

- ・学認 LMS による研究データ管理に関するオンライン講座の機関試験運用報告会
(2019 年 12 月 18 日)
- ・第 3 回 SPARC Japan セミナーにて報告 (2020 年 2 月 7 日)
- ・第 3 回京都大学研究データマネジメントワークショップにて報告 (2020 年 2 月 27 日)

2) コンテンツ流通促進作業部会

- ・ JAIRO Cloud チーム： 新 JAIRO Cloud 移行実験 (2019 年 9 月～12 月)：15 機関参加。2019 年 11 月 14 日打合せ、その他 TV 会議による打合せ、2020 年 2 ～3 月 報告書作成、地域ワークショップ (岡山)・次期 JAIRO Cloud 移行説明会への協力
- ・ SCPJ チーム：データ抽出・加工、2020 年 3 月 広報・移行作業の実施、移行後のデータ提供方法の検討
- ・コンテンツ収集チーム：GreenOA の実態把握のためのインタビュー調査 (2019 年 8 月～10 月、長崎大学、酪農学園大学ほか 17 機関を対象)、調査報告書とりまとめ (予定)。Unpaywall のデータ分析。
- ・メタデータチーム：2019 年度 JPCOAR スキーマの改訂(v.1.02) (2019 年 11 月 27 日)。2020 年 1～3 月 NII-JST-NDL でメタデータの相互運用に関する WG への協力。日英ガイドラインの修正 (予定)。
- ・第 21 回図書館総合展ポスター出展 (2019 年 11 月 12 日～14 日)

3) コミュニティ強化・支援作業部会

- ・ CoCOAR 発行 (7 号 2019 年 4 月 27 日、8 号 2019 年 9 月 3 日、9 号 2019 年 12 月 16 日、10 号 2020 年 3 月刊行予定)
- ・ JOSS 2019 ポスター出展 (2019 年 5 月 27 日)
- ・ 国立大学図書館協会総会ブース出展 (2019 年 6 月 20 日、岡山)
- ・ 私立大学図書館協会総会資料提供 (2019 年 8 月 29 日、帝京大学)
- ・ 図書館総合展における JPCOAR 出展フォーラムの運営 (2019 年 11 月 14 日) 167 名参加
- ・ 2020年1月30日 群馬県地域共同リポジトリ移行ワークショップ (企画協力)
- ・ 2020年2月13日 JPCOAR ワークショップ「OA + x = OS」開催 (岡山大学) 国立大学図書館協会中国四国地区協会と共催、 66名参加
- ・ 2020 年 3 月 6 日次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行説明会 (広報協力)
- ・ 協会 Web サイトの英語化

4) 人材育成作業部会:

- ・ 機関リポジトリ新任担当者研修の開催
 - ・ 第 1 回 (2019 年 7 月 26 日、54 名参加、NII)

- ・第2回（2019年9月30日、61名参加、武庫川女子大学）
- ・「駆け込み！DSpace等からJAIRO Cloud(現 WEKO)への移行相談会」（2019年5月30日、NII）

（4）海外会議参加

1）COAR Annual Meeting 2019 への出席と口頭発表

日程：2019年5月21日～23日

場所：University of Lyon, Lyon, France

第10回総会として、40か国110名の参加があり、各国の関係者との情報交換に努めるとともに、Pre-conference Workshop: Balancing Local Metadata Requirements with Universal Interoperability において、JPCOARスキーマの報告を行った。

（5）講師派遣・後援等

- 1）2019年度SPARC Japan セミナー企画ワーキンググループへのメンバー推薦
- 2）JOSS 2019 の企画および開催へのメンバー推薦（2019年5月27日～28日）
- 3）令和元年度大学図書館職員短期研修への講師推薦（2019年10月3日、10月10日）
- 4）第17回群馬県図書館大会第2分科会における講師派遣（2020年1月30日）
- 5）国立大学図書館協会中国四国地区協会「令和元年度国立大学図書館協会地区協会助成事業」の共催（2020年2月13日、岡山大学）
 - ・「国立大学図書館協会中国四国地区協会・JPCOARワークショップ 「OA + x = OS」 ～とにかくオープンアクセス・オープンサイエンス～」
- 6）次期JAIRO Cloud（WEKO3）移行説明会の共催（2020年3月6日、NII）

（6）成果等

- 1）データベースレスキュープロジェクトレポート（仮題）（2020年3月予定）
- 2）学認 LMS による研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用報告書（2020年3月予定）
- 3）若手研究者向け教材の作成（2020年3月予定）
- 4）次期JAIRO Cloud 移行説明会でのJAIRO Cloud 移行実験報告（2020年2～3月予定）
- 5）新JAIRO Cloud マニュアル整備（2020年3月予定）
- 6）GreenOAの実態把握のためのインタビュー調査報告書（2020年3月予定）
- 7）COAR コンピテンシーリスト及び解説論文 日本語訳（2020年3月予定）
- 8）2020年度研修計画（総会において公表予定）

4. 名簿

2019 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会委員等名簿

(1) 運営委員 (○は委員長)

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職	主 査
結城 憲司	北海道大学附属図書館研究支援課長	研究データ作業部会主査
鈴木 秀樹	筑波大学学術情報部長	
○ 江川 和子	東京大学附属図書館事務部長	
高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長	コンテンツ流通促進作業部会主査
岡部 幸祐	新潟大学学術情報部長	
杉田 茂樹	上越教育大学学術情報課長	人材育成作業部会主査
尾崎 文代	岡山大学附属図書館情報管理課長	コミュニティ強化・支援作業部会主査
山本 和雄	鹿児島大学学術情報部長	
上田 理子	札幌市立大学地域連携課長	
折戸 晶子	明治大学図書館総務事務長	
藤原 芳行	立教大学図書館事務部長	
佐藤 翔	同志社大学免許資格課程センター准教授	
鈴木 恵津子	東京家政大学図書館	
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教	
小野 亘	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課長	

※2019 年 4 月 9 日の臨時総会審議にて承認。

(2) 作業部会メンバー (◎主査、○副主査)

研究データ作業部会

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職
◎ 結城 憲司	北海道大学附属図書館研究支援課長
芝 翔太郎	北海道大学附属図書館研究支援課 函館キャンパスグループ 水産学部図書担当
中筋 知恵	小樽商科大学学術情報課専門職員
松野 渉	筑波大学学術情報部情報企画課デジタルライブラリ担当
小林 裕太	千葉大学附属図書館学術コンテンツ課亥鼻分館係図書系職員
中竹 聖也	東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム（デジタルライブラリ担当）係員
岩井 雅史	信州大学附属図書館情報システムグループ主査
天野 絵里子	京都大学学術研究支援室特定専門業務職員
木下 直	鳥取大学研究推進部図書館情報課長
大園 隼彦	岡山大学附属図書館情報管理課情報整備グループ主査
西薊 由依	鹿児島大学学術情報部情報サービス課桜ヶ丘分館情報サービス係長
小野寺 千栄	国立研究開発法人物質・材料研究機構統合型材料開発・情報基盤部門材料データプラットフォームセンター図書チームリーダー
田邊 浩介	国立研究開発法人物質・材料研究機構統合型材料開発・情報基盤部門材料データプラットフォームセンターデータシステムグループ主任エンジニア
天野 晃	国立研究開発法人物質・材料研究機構統合型材料開発・情報基盤部門材料データプラットフォームセンター データシステムグループ NIMS エンジニア
榎本 翔	日本貿易振興機構アジア経済研究所 学術情報センター図書館情報課
船守 美穂	国立情報学研究所情報社会相関研究系 准教授/オープンサイエンス基盤研究センター
古川 雅子	国立情報学研究所情報社会相関研究系 助教/オープンサイエンス基盤研究センター
朝岡 誠	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教
常川 真央	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教
尾城 孝一	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員
南山 泰之	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任技術専門員

コンテンツ流通促進作業部会

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職
◎ 高橋 菜奈子	東京学芸大学総務部学術情報課長
○ 前田 隼	北海道大学附属図書館管理課目録担当係員
○ 佐藤 まみ子	筑波大学学術情報部情報企画課リポジトリ担当係長
田口 忠祐	東京大学医学部・医学系研究科 情報サービス係長
○ 前田 朗	東京大学情報システム部情報基盤課学術情報チーム（デジタルライブラリ担当）係長
○ 片岡 朋子	お茶の水女子大学図書・情報課主任（情報基盤担当） （副主査：2020年2月～）
下城 陽介	上越教育大学学術情報課主任（情報サービス担当）
林 和宏	名古屋大学附属図書館情報管理課専門職員
西岡 千文	京都大学附属図書館研究開発室助教
松村 友花	神戸大学附属図書館情報サービス課自然科学系グループ資料整備担当
泉 愛	九州大学附属図書館eリソース課リポジトリ係係員
大谷 周平	琉球大学附属図書館情報サービス課電子情報係長
上原 藤子	沖縄科学技術大学院大学アシスタント・マネージャー
朝岡 誠	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教
林 正治	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任助教
○ 加藤 文彦	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員 （副主査：～2020年1月）
河合 将志	国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター 特任研究員
新妻 聡	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係長（研究成果整備チーム）
林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係長（研究成果整備チーム）

コミュニティ強化・支援作業部会

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職
◎ 尾崎 文代	岡山大学附属図書館情報管理課長
村井 しのぶ	一橋大学学術・図書部学術情報課電子情報係
星野 英恵	新潟大学学術情報部学術情報管理課情報基盤係
西村 恭佑	富山大学学術情報部図書館利用支援課 事務職員
土出 郁子	大阪大学附属図書館総合図書館利用支援課フロアサービス班資料管理主担当専門職員
中谷 昇	鳥取大学研究推進部図書館情報課学術情報係員

大園 隼彦	岡山大学附属図書館情報管理課情報整備グループ主査
上田 大輔	広島大学財務・総務室図書館部図書学術情報企画副グループリーダー
○ 大谷 周平	琉球大学附属図書館情報サービス課電子情報係長
土田 大輔	明治大学学術・社会連携部中央図書館事務室
林 豊	国立情報学研究所学術基盤推進部学術コンテンツ課係長（研究成果整備チーム）

人材育成作業部会

氏 名	所 属 機 関 ・ 役 職
◎ 杉田 茂樹	上越教育大学学術情報課長
長嶋 岳生	室蘭工業大学総務広報課図書学術情報室学術情報係長
安達 修介	横浜国立大学研究・学術情報部図書館情報課図書管理係事務職員
下城 陽介	上越教育大学学術情報課主任（情報サービス担当）
山口 美咲	信州大学教育学部図書館係員
寺升 夕希	滋賀医科大学情報課学術企画係専門職員
鈴木 祐介	政策研究大学院大学学術国際課情報サービス担当主査
上田 木綿子	総合研究大学院大学附属図書館学術情報基盤事務室
鈴木 恵津子	東京家政大学図書館
山崎 圭	法政大学図書館事務部 小金井事務課
高野 沙弥	田園調布学園大学図書館
今野 智子	甲南大学図書館事務室情報サービス係課員
加川 みどり	神戸松蔭女子学院大学図書館
川崎 安子	武庫川女子大学附属図書館図書課長

（３）事務局員

氏 名
木村 優（国立情報学研究所による支援要員）
杉山 美紀（国立情報学研究所事務補佐員）[人件費負担：JPCOAR]

作業部会 2019 年度活動報告

1. 研究データ作業部会
2. コンテンツ流通促進作業部会
3. コミュニティ強化・支援作業部会
4. 人材育成作業部会

研究データ作業部会 2019 年度活動報告

主査：結城 憲司

1. 2019 年度活動計画

- (1) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベースレスキュープロジェクトを実施する。
- (2) 新学習管理システム（仮称「学認 LMS」）による研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用を実施する。
- (3) 若手研究者向けの研究データ管理に関する教材を作成する。【年度開始後変更（追加）】
- (4) その他
 - ・当初計画の「研究データに対応した機関リポジトリの役割・機能要件のとりまとめ」と「研究データ利用評価指標の実務指針の翻訳」は中止【年度開始後変更（中止）】
 - ・予算状況を見ながら、検討中であった「教材理解に役立つオープンサイエンス関係の用語集の翻訳・公開」は中止【年度開始後変更（中止）】
 - ・大学 ICT 推進協議会（AXIES）研究データマネジメント部会による RDM 事例形成プロジェクトへの協力

2. 会合・活動状況（4～3 月）

- (1) 全体活動
 - ・5 月 28 日 JOSS2019 にて「JPCOAR による RDM 人材育成の取り組みと今後の展開」報告
 - ・6 月 26 日 第 1 回部会ミーティング（場所：国立情報学研究所）
 - ・11 月 14 日 図書館総合展フォーラムにて「研究データ管理のための教材作成」報告
 - ・12 月 16 日 第 2 回部会ミーティング（TV 会議）
 - ・2020 年 2 月 7 日 第 3 回 SPARC Japan セミナーにて報告
 - ・2020 年 2 月 27 日 第 3 回京都大学研究データマネジメントワークショップにて報告
 - ・2020 年 3 月頃 第 3 回部会ミーティング（TV 会議）
- (2) データベースレスキュープロジェクト
 - ・7 月-8 月 レスキューするデータベースの具体的な選定
 - ・9 月-12 月 各機関でリポジトリへの登録
（DB を作った研究者・研究グループとの相談、デジタルアーカイブとの切り分けの検討、適宜 WG メンバーへ相談・情報共有、問題点・課題の蓄積）
 - ・2020 年 1-2 月 課題の集約と整理
 - ・2020 年 3 月末 ケーススタディの結果を簡単なレポートにまとめる
- (3) 学認 LMS による研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用
 - ・7 月 16 日 参加機関募集
 - ・8 月 23 日 募集締切（応募機関：22 機関）
 - ・9 月 11 日-12 日 機関管理者向けの説明会（TV 会議）

- ・ 9 月-12 月 試験運用
 - ・ 12 月 18 日 学認 LMS 報告会
 - ・ 2020 年 3 月 試験運用報告書
 - ・ (2020 年度以降 学認 LMS の正式運用開始)
- (4) 若手研究者向け教材作成
- ・ 8 月 若手研究者向け教材に先行的に取り組んでいる千葉大学にヒアリング
 - ・ 10 月 30 日 第 1 回若手研究者向け教材作成ミーティング (TV 会議)
 - ・ 12 月 2 日 第 2 回若手研究者向け教材作成ミーティング (TV 会議)
 - ・ 12 月 18 日 学認 LMS チームとの打合せ
 - ・ 11 月-2020 年 3 月 若手研究者向け教材作成

3. 成果物 (予定も含む)

- ・ データベースレスキュープロジェクトレポート (仮題) (2020 年 3 月予定)
- ・ 学認 LMS による研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用報告書 (2020 年 2 月予定)
- ・ 若手研究者向け教材 (試行版) の作成 (2020 年 3 月予定)

4. その他

(1) 2019 年度活動計画の変更について

6/26 に開催した 2019 年度第 1 回研究データ作業部会ミーティングにおいて議論した結果、当初計画を次のとおり変更することにした。

【当初計画】

- 1) 研究データを公開する基盤の整備に向けて、機関リポジトリの役割、機能要件について取りまとめる。
- 2) 研究データの機関リポジトリへの受入・公開のベストプラクティスを事例にもとづいて検討するため、データベースレスキュープロジェクトを継続する。
- 3) 研究データの評価指標に関する実務指針“Code of Practice for Research Data Usage Metrics Release 1”を翻訳し、公開する。
- 4) RDM トレーニングツールの理解の助けになる用語集等を作成し、公開する。また、RDM トレーニングツールの機関運用の試行に取り組む。

【変更後の計画】

- 1) 研究データの公開、流通促進を図るため、データベースレスキュープロジェクトを実施する。【当初計画 2】
- 2) 新学習管理システム (仮称「学認 LMS」) による研究データ管理に関するオンライン講座の試験運用を実施する。【当初計画 4 の後半部分】

3) 若手研究者向けの研究データ管理に関する教材を作成する。【新規】

【変更理由】

- ・ 当初計画 1) については、研究データに関する具体的な取組が限られている現状では、機関リポジトリの役割や機能要件を取りまとめるのは困難であり、実態とかけ離れてしまう可能性がある。今年度は取りまとめを見送ることとし、「JPCOAR オープンアクセスリポジトリ戦略 2019～2021 年度」の最終年度である 2021 年度までには、特に役割については取りまとめることを目指したい。
- ・ 当初計画 3) については、実務指針の次のバージョンも予定されていることが明言されており、この実務指針が必要となるのもしばらく先になると予測されることから、翻訳を見送ることとした。
- ・ 変更後の計画 3) については、現在提供されている研究データ管理に関するオンライン講座はサイズが大きく、気軽に受講できないという問題があり、時間の限られている研究者にも気軽に受講しやすいコンテンツの再構築を目指すもの。

【その他】

- ・ 当初計画 4) の前半部分については、予算状況を見ながら用語集の翻訳を検討したが、教材理解に繋がる内容が限られ、優先して翻訳する必要は低く、10 月に中止することとした。

コンテンツ流通促進作業部会 2019 年度活動報告

主査：高橋 菜奈子

1. 2019 年度活動計画

- (1) JAIRO Cloud 開発に資する情報提供を行うとともに、参加機関の利用のサポートをする。
- (2) 現行の SCPJ から JPCOAR サイトへの移行を行い、オープンアクセスのインフラを整備する。
- (3) コンテンツ収集のために効果的な方法を検討するため、統計分析等によって現状を調査する。
- (4) JPCOAR スキーマの普及・維持管理を継続して実施する。

2. 会合・活動状況 (4~3 月)

- ・ 6 月 18 日 全体ミーティング (第 1 回) (場所：国立情報学研究所)

全体を 4 つのチームにわけて、活動することとなった。

- ・ JAIRO Cloud チーム (前田<副主査>、上原、下城、林和宏、林正治、朝岡、林豊、新妻)
- ・ SCPJ チーム (佐藤<副主査>、松村、大谷、林正治、林豊)
- ・ コンテンツ収集チーム (前田隼<副主査>、泉、西岡、河合)
- ・ メタデータチーム (加藤<副主査>、片岡、田口、新妻)

以下、各チームの活動状況

(1) JAIRO Cloud チーム

- ・ 新 JAIRO Cloud 移行実験のため、JPCOAR 参加機関の中から協力機関を募集。大学・研究所 10 機関に加えコミュニティ作業部会が実験に参加
- ・ 9 月 4 日 第 1 回テレビ会議
新 JAIRO Cloud 移行実験の実験内容及び参加機関のサポートについて検討。
NII から開発の遅れ・新 JAIRO Cloud 評価用環境の準備状況についての報告あり。実験時期が 12 月末までずれ込むことになった。
- ・ 10 月 8 日 新 JAIRO Cloud 評価用環境の提供
- ・ 10 月 10 日 第 2 回テレビ会議
移行実験環境及び検証内容の確認、現時点で判明している懸案事項のフォローを実施。
- ・ 10 月 31 日 第 3 回テレビ会議 (予定)
初期評価環境における検証内容についてヒアリングの実施、今後あらたに提供される評価環境での移行実験について打合せ。

- ・ 11 月 14 日 図書館総合展フォーラム発表
- ・ 11 月 14 日 移行実験参加館打合せ
移行実験参加館との状況共有
- ・ 12 月 19 日 第 4 回テレビ会議
- ・ 12 月 実験終了
- ・ 12～3 月 報告書作成（予定）
- ・ 2 月 13 日 地域ワークショップ（中四国地区）協力
- ・ 3 月 6 日 次期 JAIRO Cloud 移行説明会協力
- ・ 3 月 17 日 JPCOAR 総会での報告

（2）SCPJ チーム

- ・ 6 月 26 日 現 SCPJ 上のコンテンツ（ポリシー以外の PDF 等）の抽出済
- ・ 8 月 9 日 現 SCPJ のデータ抽出・加工済
- ・ 移行後のデータ提供方法について Google スプレッドシートに決定。
- ・ 11 月 現 SCPJ サイト上で移行について掲出。
<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/index/>
- ・ 12 月 4 日 第 1 回テレビ会議
次年度以降の運営体制・データ更新の方向及び移行スケジュールについて確認。
- ・ 10～3 月 広報・移行作業(予定)
- ・ 10～1 月 データ更新の方策を検討（予定）

（3）コンテンツ収集チーム

- ・ 8～10 月 GreenOA の実態把握のためのインタビュー調査
17 機関を対象に実施
- ・ 6 月 28 日 第 1 回テレビ会議
インタビュー調査計画の策定
- ・ 8 月 21 日 第 2 回テレビ会議
インタビュー調査にあたっての最終確認
- ・ 11 月 12～14 日 図書館総合展ポスター発表、フォーラム発表
- ・ 12 月 25 日 コンテンツチーム データ分析分科会
グリーン OA 状況調査報告、Unpaywall のデータ分析を含む
- ・ 2 月 13 日 地域ワークショップ（中四国地区）協力
- ・ 3 月 17 日 JPCOAR 総会への協力
インタビュー調査対象機関を中心に、グッドプラクティスの情報共有のための講演会を実施
- ・ 10～2 月 調査報告書とりまとめ

(4) メタデータチーム

- ・ JPCOAR スキーマの改訂及び JPCOAR スキーマガイドラインの改善に向けた検討を実施中
- ・ 8月 JPCOAR スキーマガイドラインの改訂手順を整理
- ・ 8月～ 人材育成作業部会で検討している専門研修（技術セミナー）への協力
- ・ 10月10日 第1回打合せ
2019年度 JPCOAR スキーマ改訂内容の検討及び確定
JPCOAR スキーマ改訂時の対応手順、スケジュールの確認
- ・ 11月27日 JPCOAR スキーマ ver.1.0.2 リリース
- ・ 11月～1月 JPCOAR スキーマの改訂に伴う日英ガイドラインの修正
- ・ 11月～3月 デジタルアーカイブ対応に向けた情報収集
- ・ 1月～3月 NII・JST・NDL でメタデータの相互運用に関する WG への協力

3. 成果物（予定も含む）

- ・ 片岡朋子「JPCOAR スキーマが支えるデータ引用」（5月27日 JOSS2019）
https://japanlinkcenter.org/rduf/doc/joss2019_rdc_05.pdf
- ・ 前田朗「JAIRO Cloud 実証実験の中間報告」（11月14日図書館総合展フォーラム）
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&item_id=208&file_id=16&file_no=4
- ・ 河合将志「コンテンツ収集インタビュー調査報告」（11月14日図書館総合展フォーラム）
- ・ 図書館総合展ポスター発表「オープンアクセスを支えるコンテンツ流通：JPCOAR における JAIRO Cloud、SCPJ、メタデータ、コンテンツ収集の取り組み」（11月）
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000183/>
- ・ JPCOAR スキーマ ver.1.0.2（改定内容：<https://schema.irdb.nii.ac.jp/ja/history>（11月27日））
- ・ JPCOAR スキーマ英語版ガイドラインの修正（1月）
- ・ 国立大学図書館協会中国四国地区協会・JPCOAR ワークショップ（2月13日）
河合将志「コンテンツ収集のための方策 分析・調査報告」
前田朗「新 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行評価実験報告」
- ・ 次期 JAIRO Cloud 移行説明会での JAIRO Cloud 実証実験の報告（3月6日）
前田朗「移行実験の概要」、林和宏「参加機関からの報告（1）」
- ・ JPCOAR 総会での報告（3月17日）
河合将志「機関リポジトリ・インタビュー調査報告（仮）」
- ・ JAIRO Cloud 実証実験の報告書（3月予定）
- ・ GreenOA の実態把握のためのインタビュー調査報告書（3月予定）
- ・ SCPJ 移行の完了（3月予定）

4. その他

- ・昨年度のメタデータ普及タスクフォースの成果の公表

「IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : JPCOAR スキーマ編」 <http://id.nii.ac.jp/1458/00000135/>

「IRDB データ提供機関のための DOI 管理・メタデータ入力ガイドライン : junii 2 編」
<http://id.nii.ac.jp/1458/00000185/>

1. 2019 年度活動計画

- (1) 協会 HP、Facebook、情報誌 CoCOAR での情報提供及び情報発信を行う。
- (2) JAIRO Cloud コミュニティサイトによるサポートを継続するとともに、現有のウェブサイトやコミュニティツールのあり方を整理し、新 JAIRO Cloud への移行に伴う次年度以降のサイト運営計画を作成する。
- (3) JPCOAR の活動成果普及、地域単位でのコミュニティ活性化をはかるため、図書館総合展のフォーラム開催及び地域でのイベントプログラムを実施する。
- (4) 会員機関のグッドプラクティスを情報誌やイベントで取り上げて情報共有を図るとともに、取り組みへの支援策を検討する。

2. 会合・活動状況 (4～3 月)

- ・ 4 月 27 日 CoCOAR 7 号 公開
- ・ 5 月 27 日 JOSS2019 ポスター出展
- ・ 5 月 30 日 NII オープンフォーラム運営協力、パンフレット改訂
- ・ 6 月 3 日 第 1 回ミーティング (場所：国立情報学研究所)
- ・ 6 月 20 日 国立大学図書館協会総会ブース出展 (岡山大学)
- ・ 7 月 31 日 定例ミーティング (TV 会議 以降月 1 回で開催)
- ・ 8 月 29 日 私立大学図書館協会総会資料提供 (帝京大学)
- ・ 9 月 3 日 CoCOAR 8 号公開
- ・ 10 月 Twitter アカунツ (@jpcoar) 開設、SNS 運用マニュアル策定
オープンアクセスウィーク特設サイトの設置 (参加機関の活動紹介、機関リポジトリ担当者インタビュー等の実施)
https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/index.php?page_id=128
- ・ 10 月 24 日 SPARC Japan セミナー運営協力
(11 月 12 日、12 月 20 日、2 月 7 日も)
- ・ 11 月 14 日 図書館総合展フォーラム 参加者総数 167 名
- ・ 12 月 16 日 CoCOAR 9 号公開
- ・ 12 月 WEKO3 移行評価実験参加
- ・ 1 月 30 日 群馬県地域共同リポジトリ移行ワークショップ (企画協力)
- ・ 2 月 13 日 JPCOAR ワークショップ「OA + x = OS」開催予定 (岡山大学)
国立大学図書館協会中国四国地区協会と共催、参加 66 名
- ・ 3 月 CoCOAR 10 号公開予定
- ・ 3 月 6 日 次期 JAIRO Cloud (WEKO3) 移行説明会 (広報協力)
- ・ 3 月 17 日 グッドプラクティス普及イベント開催予定 (JPCOAR 総会の一部)

サイト英訳調整、コミュニティツールの試行

人材育成作業部会 2019 年度活動報告

主査：杉田 茂樹

1. 2019 年度活動計画

- (1) オープンアクセス、オープンサイエンスを推進する人材に求められるスキル抽出を行う
- (2) 対象者、目的に合わせ、研修体系の再構成を行う

2. 会合・活動状況 (4～3 月)

- ・ 4～5 月 COAR コンピテンシーリストの翻訳と分析
- ・ 5 月 30 日 「駆け込み！ DSpace 等から JAIRO Cloud (現 WEKO) への移行相談会」(10 機関 12 名参加)
- ・ 7 月 8～9 日 RCOS ミーティングへの参加、意見交換 (杉田)
- ・ 7 月 25 日 作業部会ミーティング開催
- ・ 7 月 26 日 第 1 回機関リポジトリ新任担当者研修 (会場：NII)
- ・ 7 月～8 月 COAR 解説論文の翻訳、COAR への通知
- ・ 9 月 30 日 第 2 回機関リポジトリ新任担当者研修 (会場：武庫川女子大学)
- ・ 現在進行中：COAR コンピテンシーリストの分析等に基づき、新任研修の見直し、専門研修の立案に着手中。今後、検討領域ごとに小規模な検討会を実施予定

3. 成果物 (予定も含む)

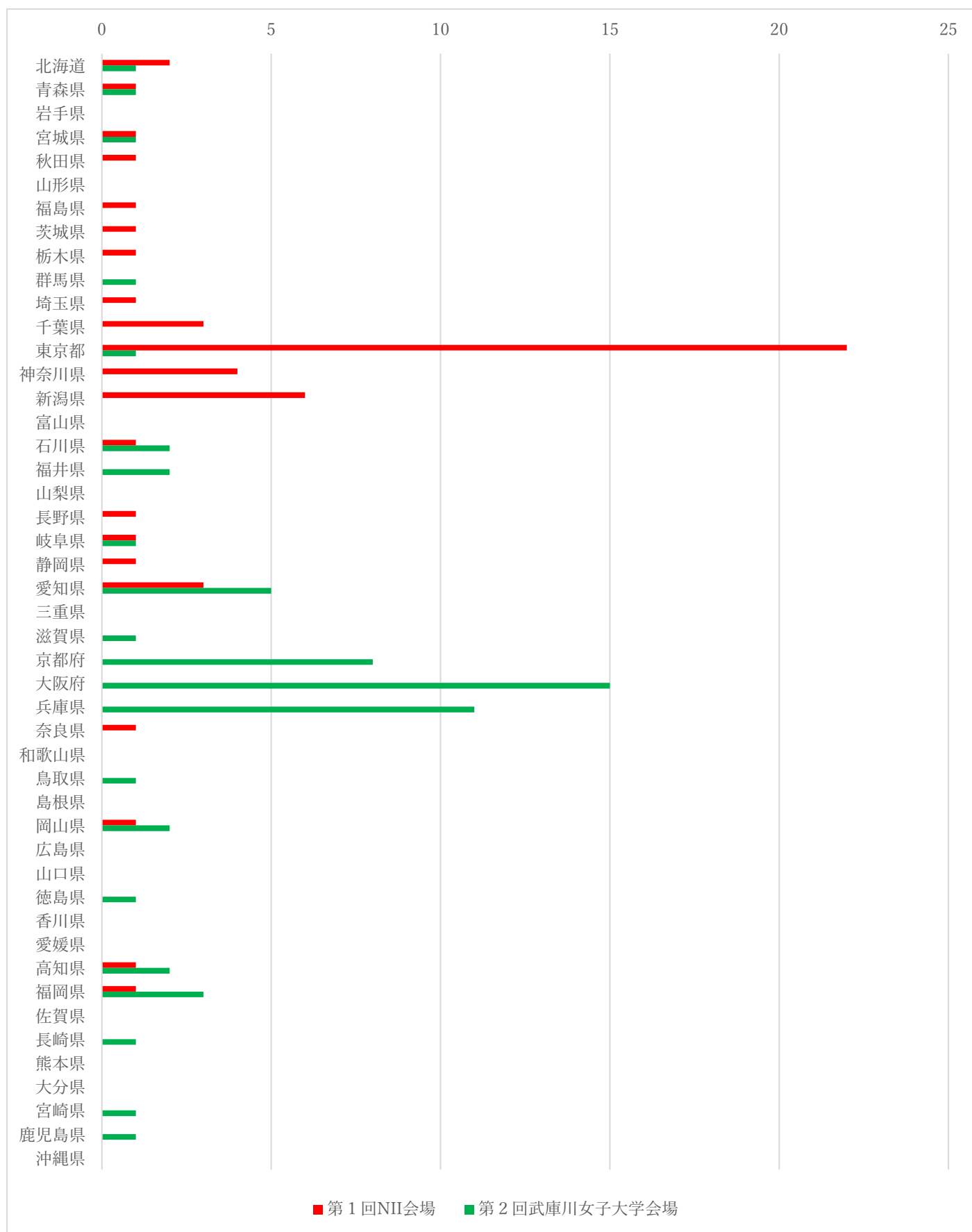
- ・ COAR コンピテンシーリスト及び解説論文 日本語訳 (10 月中予定)
- ・ 2020 年度研修計画 (総会において公表予定)

4. その他

今年度はじめて新任担当者研修を関西地区を会場として開催した。西日本の会員機関にとって参加しやすい機会となったものと考えられる (別紙参照)。

以上

各回の参加者所属機関（都道府県別）



2019 年度オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）決算（経過報告）

<収入の部>

単位：円

科目	当初予算額 (A)	最終予算額 (B)	増減 (B-A)	備考
1. 会費	13,580,000	14,620,000	1,040,000	会員機関数増による増額 2019年度会員機関数: 630 (1/10現在) * 会費区分A:2万円×558機関= 1,116万円 会費区分B:4万円× 43機関 = 172万円 会費区分C:6万円× 29機関 = 174万円
計	13,580,000	14,620,000	1,040,000	*年度途中退会：1機関含む

<支出の部>

単位：円

科目	当初予算額(A)	決算見込額(B)	増減 (B-A)	備考
1. 事務局経費	7,370,000	8,848,000	1,478,000	事務協力費及び事務局運営費※ 1
2. 運営委員会等経費	1,070,000	294,000	▲ 776,000	
活動費	1,020,000	291,000	▲ 729,000	運営委員会(3回)、企画調整会議(6回)
監事監査費	50,000	3,000	▲ 47,000	
3. 総会経費	670,000	50,000	▲ 620,000	2019年度総会集会形式の開催中止
総会会場費	220,000	0	▲ 220,000	一橋大学一橋講堂中会議場使用
総会運営費	280,000	0	▲ 280,000	運営委託経費及び資料印刷
総会旅費	170,000	50,000	▲ 120,000	運賃取消料
4. 図書館総合展出展	260,000	139,000	▲ 121,000	講師/運営担当
5. 部会活動費	2,800,000	2,848,000	48,000	
5-1. 作業部会活動費	2,800,000	2,848,000	48,000	()内は回数
研究データ作業部会	350,000	458,000	108,000	部会ミーティング(1)、学認LMS報告会等
コンテンツ流通促進作業部会	690,000	1,073,000	383,000	部会ミーティング(3)、移行実験打合せ、インタビュー調査等
コミュニティ強化・支援作業部会	980,000	712,000	▲ 268,000	部会ミーティング(1)、図書館総合展運営、地域ワークショップ等
人材育成作業部会	780,000	605,000	▲ 175,000	部会ミーティング(1)、新任担当者研修(2)、研修企画打合せ(2)
6. 国際連携活動費	1,410,000	2,441,000	1,031,000	
海外派遣旅費	400,000	401,000	1,000	COAR総会2019
COAR会費	1,010,000	2,040,000	1,030,000	1,020,000円/2019, 1,020,000円/2020
計	13,580,000	14,620,000	1,040,000	

※ 国立情報学研究所予算からの支援は、2019年度は不要とする。

※ １：「事務補佐員」の該当者は１人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、事務局経費の内訳は示さない。

JAIRO Cloud利用料金

< 収入の部 >

単位：円〔税込み〕

科目	当初予算額(A)	決算見込額(B)	増減 (B－A)	備考
JAIRO Cloud利用料金	56,203,200	58,730,400	2,527,200	JAIRO Cloud利用機関数増による増額 2019年度JAIRO Cloud利用機関数：551
計	56,203,200	58,730,400	2,527,200	

< 支出の部 >

単位：円

科目	当初予算額(A)	決算見込額(B)	増減 (B-A)	備考
JAIRO Cloud運用費	56,203,200	58,730,400	2,527,200	
計	56,203,200	58,730,400	2,527,200	